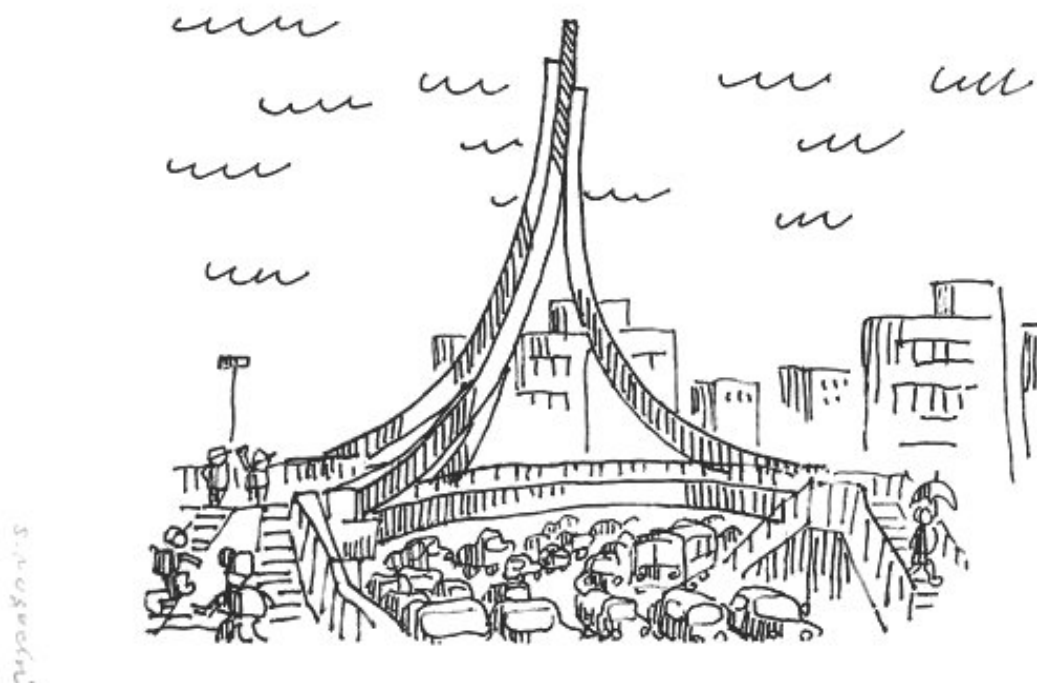


新川校区住みよい暮らしづくり計画

新川大好き再発見！
よいとこ伸ばして住みよいまち



「住みよい暮らしづくり計画」とは、地域に住んでいる人たちが中心となり、“自分のまちを暮らしやすいまちにするため何が必要か”“何をしていくか”ということをもとめた計画書です。

平成23年3月

新川校区住みよい暮らしづくり委員会

目 次

1	はじめに	1
2	新川の概要	2
3	新川の魅力	4
4	新川の課題	6
5	新川のまちづくり計画	8
6	計画を実現するために	12
7	資料編	13



1 はじめに

変化の激しい現代社会に対応する新しい地域づくり、まちづくりが各地、各校区で積極的に推進されております。新川校区では、豊橋市の「住みよい暮らしづくり計画」作成のモデル校区として選ばれたことをきっかけに、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という気持ちで、全国のよいところ、他校区のよいところも取り入れ、新川校区の実情にあった計画づくりを目指してまいりました。

平成 20 年、各町自治会から選出された代表者（レギュラーメンバー）と各町自治会長（サポートメンバー）からなる「住みよい暮らしづくり委員会」を立ち上げました。環境面での共通点や日頃の交流等により、委員を 3 つの町自治会ずつ 5 グループに分け、校区民アンケートやまちなかウォッチング*、住民インタビューなどを行いながら、3 年にわたり調査研究を実施してまいりました。その結果、「新川大好き再発見！よいところ伸ばして住みよいまち」という言葉をキャッチフレーズとしたまちづくりの計画書をまとめることができました。

この計画書にまとめられた内容は、新川校区を住みやすいまちにしていくうえでの指針ともなるものと思います。この計画を各町自治会でも共有していただき、校区全体の活動の方向性を一致させることにより、校区、町の活動が一層発展するものと期待されます。

校区のみなさんには、この住みよい暮らしづくり計画の理念にご理解をいただき、この計画の推進に積極的にご参加とご協力をいただきますようお願い申し上げます。



住みよい暮らしづくり委員会の様子



まちなかウォッチングの様子

*まちなかウォッチング…実際にまちなかを見て歩くことで、校区の現状を把握する方法です。

2 新川の概要

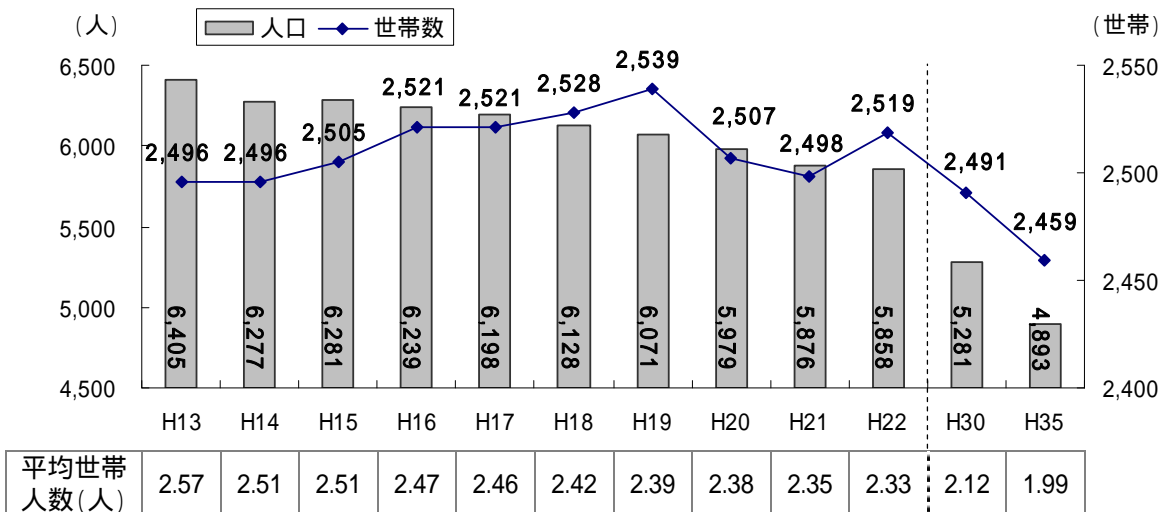
100年を超える新川の歴史の中で、現在の新川校区の範囲が確定されたのは、昭和32年、新川小学校向山分校（現在の向山小学校）の開校時です。

また、昭和31年ごろには自治会（当時は総代会）名の変更があり、^{よしやまち}吉屋町、^{てまちょう}東新川町が新吉町、^{てまちょう}手間町が大手町、末広町が神明町になりました。昭和43年には大手ビル町が自治会区域として設定され、その後も町名の変更はありましたが、現在15の町自治会が活動しています。

平成12年には校区で最後となる前田南土地区画整理事業も第二向山町の半分を残して終了し、校区内の町字もすべて確定しました。

新川校区は道路交通の要の位置にあり、東京・大阪を結ぶ国道1号線、豊橋を起点に奥三河・信州地方へ通じる国道151号線、蒲郡方面に通じる国道23号線や渥美半島に通じる国道259号線に接しています。また、校区内を路面電車が通り、豊橋駅にも近いので、JRや名鉄線、渥美線、バスなどの公共交通機関も利用しやすい地域です。

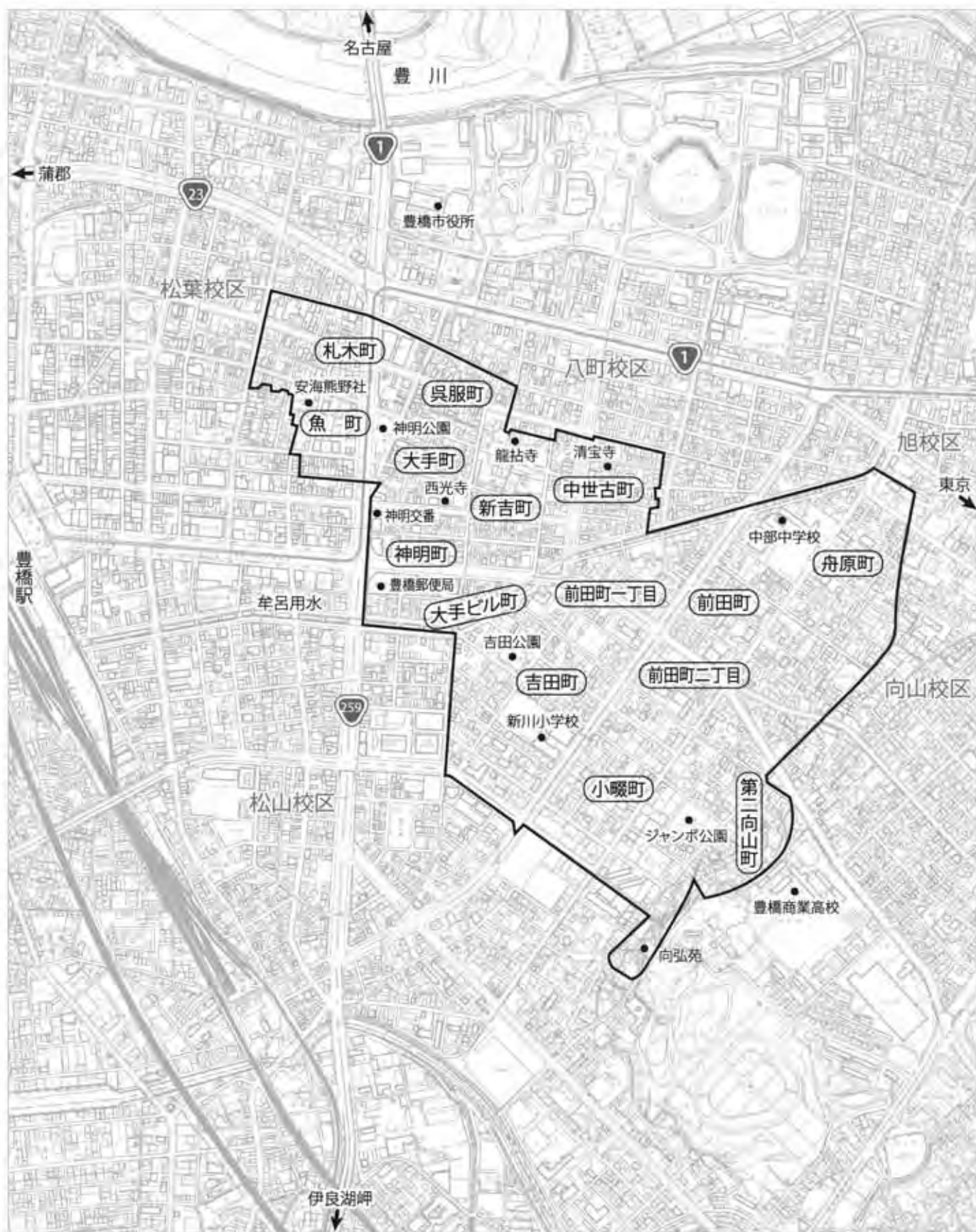
新川校区の人口・世帯の推移と推計



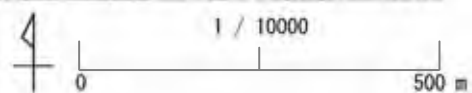
※ 平成30年、35年はコーホート変化率法による推計値
 ((有)あしコミュニティ研究所 浦野秀一氏提供)

各年4月1日現在 資料：豊橋市

新川校区周辺図



○町自治会名



3 新川の魅力

歴史・文化

新川校区は、豊橋の中心部に位置し、豊橋で最も古くから開けていた地域です。お祭りも活発で、鬼まつりや祇園まつりなどの伝統のあるお祭りに加えて、各町自治会では、それぞれの氏神様の祭礼を行っており、そこに住む人々の心のつながりを強める大きな力となっています。

また、四九の市や西の市が行われる西光寺、県指定の文化財である能面・能衣装がある魚町の安海熊野社、今橋城主牧野古白のお墓がある龍拈寺、不動明王大祭が行われる清宝寺などがあり、歴史と文化を感じるまちです。



西光寺の「西の市」(撮影者/小澤忠嗣)



安海熊野社の能面 左から平太、増女、大べし見 (撮影者/高坂泰弘)

生活基盤

新川校区には、学校や病院、郵便局、いろいろなお店など、生活に必要な施設がそろっています。道路も整い、街路灯や防犯灯が設置されて明るいところの多いまちです。また、市電、バスといった公共交通機関を利用するのにも便利な地域です。

さらに、ジャンボ公園や吉田公園など体づくりや憩いの場所である公園、高齢者のための地域包括支援センターやデイサービスといった福祉施設、レインボータワーやくすの木通り、牟呂用水といった景観的にも優れたシンボリックな施設もあり、生活していくうえで最も恵まれた校区のひとつといえます。



ほっとラム (撮影者/大辻太一郎)

交流

新川校区では、校区の運動会、新川夏まつり、豊橋まつりの市民総おどり、2年に1度開催する防災訓練など、様々な行事があります。また、各町自治会でも、身近なまちの問題を話し合うとともに、いろいろな行事を行っています。特に町の祭礼は、11の町自治会が秋まつりとして同一の日で開催し、相互に訪問し合うことで、町自治会間の交流も深まっています。ほかにも、年末に向弘苑で行われるもちつき大会などは三世代交流の場となっています。

このほか、消防団、老人クラブ、子ども会、PTA、防犯・防災、交通安全を始め各種団体の活動も活発に行われており、豊橋の中心地にあるにもかかわらず犯罪の少ない校区となっていることも魅力となっています。

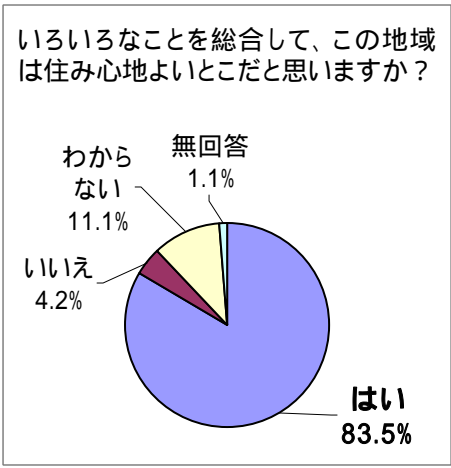
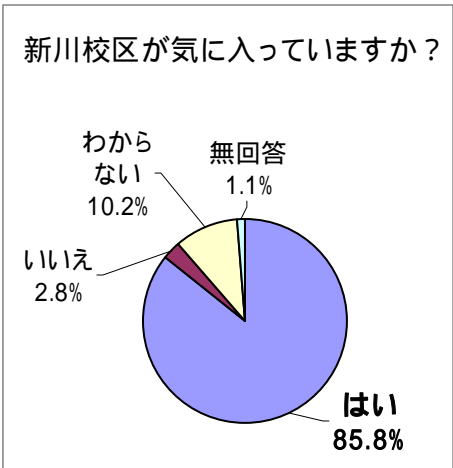
また、校区市民館を中心とした活動も活発に行われており、文化祭、クリスマスコンサート、市民館まつりと校区民の日頃の努力の成果を発表する場所も確保されています。



新川夏まつりの様子（撮影者／高井清）



札木町、魚町、呉服町、大手町、新吉町では祝日にそろって国旗を飾ります（撮影者／伊藤哲夫）

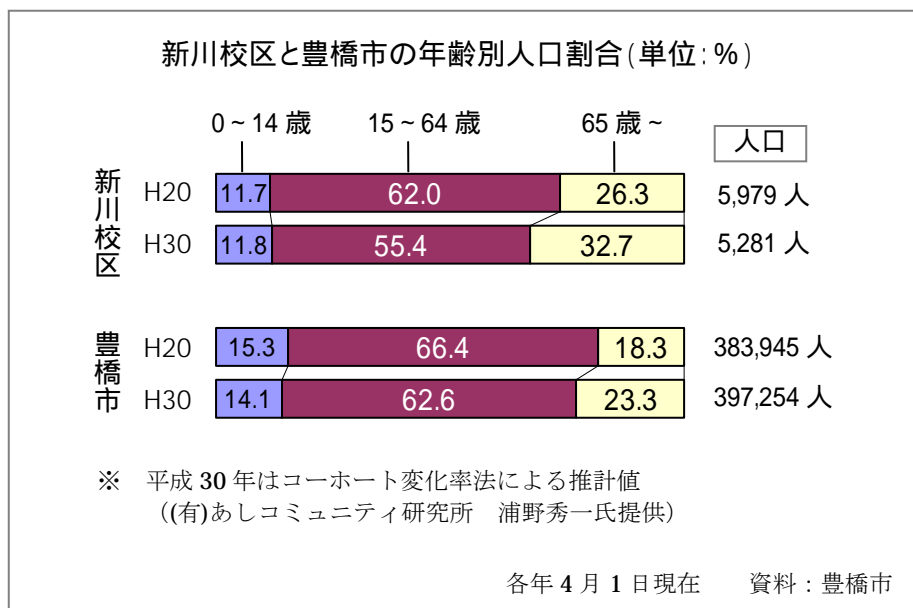


※グラフは、校区民アンケート（平成21年6月）のものです。

4 新川の課題

下のグラフからわかるように、新川校区の少子高齢化は、豊橋市全体と比較して、かなり進んでいることがわかります。また、2 ページのグラフにあるように、新川校区の1世帯あたりの平均人数は、平成22年4月1日現在、2.33人ですが、減少傾向にあり、今後、高齢単身者世帯や高齢者夫婦世帯が多くなると予想されます。

以上のことから、住みよい暮らしづくり委員会では、「子ども」と「高齢者」をキーワードに課題を整理してきました。



交流

平成21年6月に行った校区民アンケートでは、近所付き合いがあると答えた人は7割近くいましたが、町や校区の行事、ボランティア活動、趣味のサークル活動への参加者は少ないということがわかりました。しかし、住んでいる地域の役に立ちたいと考えている人は6割以上と多いため、いろいろな年代の人が参加しやすくなるよう行事を工夫することが大切です。

また、高齢者がいきいきと活動できる場所のひとつとして老人クラブがあげられますが、組織を運営する幹部の高齢化や役員のなり手がいないこと、新しい会員の確保が難しいことなどの課題を抱えています。このような現状を打破し、いきいきとした活動ができる老人クラブにしていくため、自治会長をはじめとする自治会幹部も真剣に取り組んでいくことが重要です。

健康

高齢化が進み健康への関心は高まっていますが、アンケート結果を見ると、健康のための取り組みやスポーツをしている人は多くありません。神明公園、吉田公園、ジャンボ公園といった健康遊具のある公園もありますが、今後は高齢者にも利用しやすい設備の充実が望まれます。また、子ども、親、高齢者が一緒に公園を利用し、花壇の手入れや清掃を行うなど、公園の特性を考えた交流ができれば、住民の健康にも子どもの安全にもよいことと思います。

安全

アンケートや住民インタビューの結果を見ると、地域で高齢者を助ける仕組みが不十分であることがわかります。災害時はもとより平常時も含めた高齢者の見守り体制の確立が大きな課題といえます。

また、比較的事故や犯罪の少ない新川校区ですが、不審者が心配で子どもだけでは公園で遊ばせることができないという声もあり、子どもの安全に対しては十分注意を払っていく必要があります。

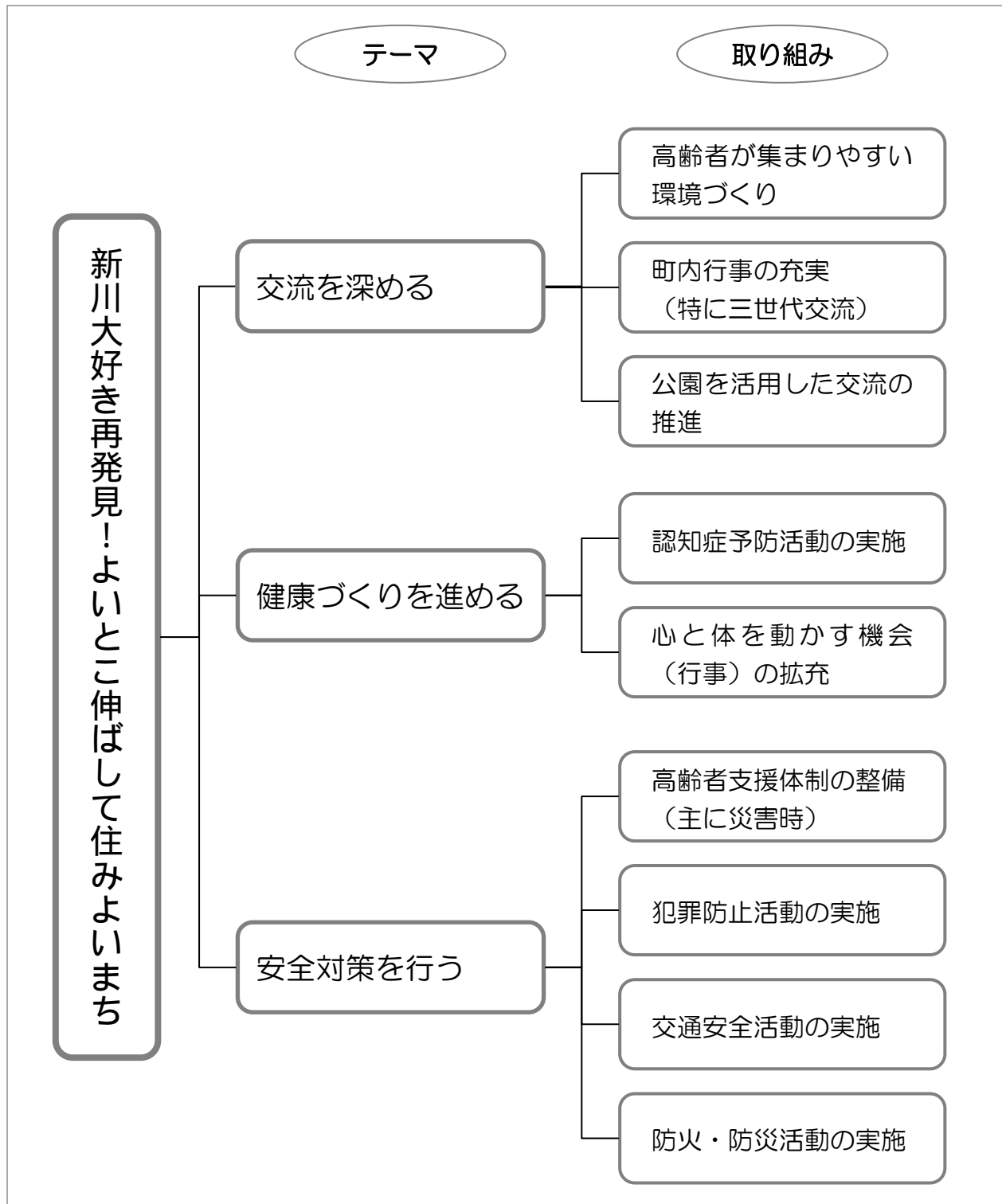
交通安全の面では、左右の確認がしにくかったり、主要道路なのに信号機がなかったりするなどの危険な箇所があり、事故が多発している交差点もあります。アンケートでも校区内の道路が歩行者にとって安全だと考える人は4割程度にとどまっています。

防災面では、家庭における火災報知機の設置や家具の転倒防止策が不十分であることや校区の防災訓練に参加したことがある人が少ないことが課題となっています。アンケート結果によれば、地域の防災力の向上には、地域内のコミュニケーションが大切だと考える人が多く、隣近所の人と防災の話をしたりすることも効果的と考えます。



5 新川のまちづくり計画

校区の現状を調べ、魅力や課題を整理していくと、新川校区は本当に住みやすく、すばらしい校区だということがわかります。そんな新川校区をもっとよくするために、「新川大好き再発見！よいとこ伸ばして住みよいまち」というキャッチフレーズのもと、様々な取り組みを進めていきます。



交流を深める

取り組み	具体的内容	優先順位	
		さき	あと
高齢者が集まりやすい環境づくり	◎ 自治会長が率先して老人会活動を活発にする	●	
	◎ いろいろなこと（料理、旅行計画等）を考える場をつくる		●
	◎ 老人クラブ活動の一環として、ボランティア活動などを提供できるシステムをつくる		●
	△ 全自治会に老人クラブをつくる	●	
	△ グループ内の3町合同で高齢者の防犯・交通安全教室を実施		●
	○ お祭りなどの準備で老人クラブの力を借りる		
町内行事の充実（特に三世交代）	△ 新しい行事をつくる		●
	△ 子どもと一緒に昔の遊びを行う		●
	○ いろいろな人が参加しやすくなるよう行事を工夫する （例：男性ごと女性ごとの町内旅行、通りごとのガレージパーティ、花見・紅葉狩り等の小旅行）		
	○ お祭りの活発化		
	○ 向こう三軒両隣の付き合いの復活（近所づきあいを大切にする）		
	○ 高齢者と子どもと一緒に530運動に参加する		
	○ 高齢者と子どもと一緒に資源回収などを行う		
公園を活用した交流の推進	◎ 公園の清掃や花壇の世話などのボランティア活動の実施		●

取り組み主体

- ◎：校区主体または、すべての町で取り組むもの
- △：校区主体でも、各町主体でも取り組めるもの
- ：必要に応じて各町が独自に取り組むもの

優先順位（とのみ）

- さき：緊急性の高いものや、すぐに取り組めるもの
 - あと：少し後でも間に合うものや、取り組むまでに時間のかかるもの
- については、町によって事情が異なるため、優先順位はつけていません。

健康づくりを進める

取り組み	具体的内容	優先順位	
		さき	あと
認知症予防活動の実施	◎ 認知症予防の講習会や健康講話などの実施	●	
	◎ 簡単にできる高齢者の健康チェックを行う（認知症、メタボリック、糖尿病）		●
	○ グループで楽しく話をする	/	/
	○ 老人クラブの活動に参加する		
心と体を動かす機会（行事）の拡充	◎ ラジオ体操の実施（対象者、会場、回数を増やすなど）		●
	△ 趣味のグループをつくる（例：太極拳、ダンス、ヨガ、将棋、囲碁等）		●
	△ 校区の安全なウォーキングコースの設定やコースマップ作成（例：公園を結んだコース、夜間も安全に歩けるコース、休憩できる場所があるなど）		●
	○ ウォーキングの実施（子どもと高齢者が一緒に歩く、グループで散歩するなど）	/	/
	○ 公園の健康遊具の活用		

取り組み主体

- ◎：校区主体または、すべての町で取り組むもの
- △：校区主体でも、各町主体でも取り組めるもの
- ：必要に応じて各町が独自に取り組むもの

優先順位（とのみ）

さき：緊急性の高いものや、すぐに取り組めるもの
 あと：少し後でも間に合うものや、取り組むまでに時間のかかるもの
 については、町によって事情が異なるため、優先順位はつけていません。

安全対策を行う

取り組み	具体的内容	優先順位	
		さき	あと
高齢者支援体制の整備 (主に災害時)	○ 高齢者の見守り活動の充実(近所の人を担当する高齢者を決めて見守るなど)	/	/
	○ 緊急連絡網の充実(高齢者自身に何かあったときに知らせる家族・親戚等の連絡先)		
犯罪防止活動の実施	△ 子どもの登下校時の見守り活動(見守りの車を増やすなど)・あいさつ運動の強化	●	
	△ 子どもが安心して遊べる場所の確保(公園の有効活用)	●	
	△ 小・中学生の健全育成組織の整備	●	
交通安全活動の実施	◎ 交通立ち番の実施	●	
	◎ 通学路の安全確保	●	
	◎ 危険か所の確認・改善	●	
	◎ 交通ルールの徹底	●	
防火・防災活動の実施	○ 火災報知機の設置状況のチェック(→設置)	/	/
	○ 家具の転倒防止		
	○ 高齢者マップの作成		

取り組み主体

- ◎ : 校区主体または、すべての町で取り組むもの
- △ : 校区主体でも、各町主体でも取り組めるもの
- : 必要に応じて各町が独自に取り組むもの

優先順位(とのみ)

- さき : 緊急性の高いものや、すぐに取り組めるもの
 あと : 少し後でも間に合うものや、取り組むまでに時間のかかるもの
 については、町によって事情が異なるため、優先順位はつけていません。

計画を実現するためには、校区全体で取り組む、町自治会独自で取り組む、近隣の町自治会が協力して取り組むなど、内容により取り組み方が異なります。

また、計画したことを同時に取り組むことが困難な場合もあり、優先順位等にも配慮しながら実行に移していく必要があります。

6 計画を実現するために

今後この計画を実現するためには、この内容を校区のみなさんに知っていただき、理解してもらう活動が重要となってきます。

そこで、計画書を全世帯に配布することが第一に必要と考えます。次に、校区自治会長会をはじめ、校区の各種団体など、様々な機会を通して説明し、理解を求めていくことが必要です。

また、この計画に載っている取り組みのなかで、すでに校区や各種団体、町自治会、個人のグループなどが実施しているものについては、内容を把握し、広く紹介していくことも重要です。当面は、すでに実施されている取り組みの内容を正確につかむとともに、その情報を校区社会福祉協議会参加団体である老人クラブ、子ども会育成委員、防犯協会、交通安全推進委員、防災指導員等の総会などの機会をとらえて紹介し、理解を深めていきます。

さらに、新川小学校メールや豊橋ほっとメールなどを通して提供される情報や他校区の状況、テレビ番組で紹介されるまちづくりに役立つ情報等を積極的に受け入れ、その内容を「校区だより」等を利用し、組回覧や、ときには全戸配布するなど広報宣伝活動の幅を広げていくことも必要です。



7 資料編

新川校区住みよい暮らしづくり計画作成の経過

年度	月	内 容
20	4～9月	新川校区住みよい暮らしづくり委員会構成メンバー検討
	6～7月	住みよい暮らしづくり研修（全2回、延べ73名参加） 講師：（有）あしコミュニティ研究所 代表取締役 浦野 秀一 氏
	10～11月	町自治会ごとに2～3名を選出し、委員を決定
	12～2月	校区内を5地区に分けて作成グループを編成、現状把握の方法を検討
21	～5月	校区民アンケートの内容を検討
	6月	まちづくりアドバイザーとの懇談会（22名参加） アドバイザー：（有）あしコミュニティ研究所 代表取締役 浦野 秀一 氏
	～9月	校区民アンケート実施及び集計（配付数：2,231、回答数：1,318、回答率59.1%）、アンケート結果の検証
	10～11月	グループごとにまちなかウォッチングとインタビューを実施
	12月	まちなかウォッチングとインタビューのまとめ
22	～6月	「子ども」、「高齢者」をキーワードとして取り組みテーマを検討
	6～8月	3つのテーマ（①交流を深める②健康づくりを進める③安全対策を行う）で進めることを決定
	9月	取り組みの決定
	10月	取り組みの具体的内容の決定
	11～3月	計画書のまとめ

新川校区住みよい暮らしづくり委員会名簿

平成 20～22 年度

グループ	町 名	レギュラーメンバー	サポートメンバー*	グループの共通点
A	札 木	◎ 鈴木 良昌 中野 忠	佐野 和男 (H20) 山田 享司 (H21) 山内 伸 (H22)	路面電車と店舗
	魚	今泉 一子	加藤 高義	
	呉 服	杉浦 敏二 ○ 伊藤 哲夫	河合錠太郎 (H20) 鈴木 和毅 (H21～)	
B	大 手	鈴木 守男 ◎ 小澤 忠嗣	及部 武彦 (～H21) 桑名 規夫 (H22)	店舗・住居が共存
	神 明	森下 睦美 ○ 河崎 寿夫	手島 邦雄	
	新 吉	○ 清水 利男	鈴木 康正	
C	前田1	山本 弘光 丸地 長久 (～H21) 三木 健人 (H22)	山本 弘光	牟呂用水 レインボータワー
	大手ビル	◎ 出口 一郎	赤羽紀比古	
	中世古	○ 竹本 尚正 ○ 松下 智司	早川 允雄	
D	前田2	○ 中村 年宏 今泉 敏彦	大井 英男	戸建住宅主体 一部店舗
	第2向山	◎ 大羽 重治 吉田 忠孝	大林 正和	
	前 田	河合みどり (～H21) ○ 近藤 正	鈴木 信夫 (H20) 河合みどり (H21) 金子 俊己 (H22)	
E	小 畷	○ 天野 高吉 磯田 典彦	原瀬 強 ☆ 天野 高吉 (H22)	マンション・ アパート・戸建 共存
	吉 田	○ 三浦 正信 伊東 美彦	小池喜八郎 (H20) 伊藤 雅人 (H21～)	
	舟 原	◎ 黒柳 清幸 桑山 真一	畑野 一彦	

☆：住みよい暮らしづくり委員会会長 ◎：リーダー ○：サブリーダー *：自治会長

【参考文献】

新川校区総代会・新川校区史編集委員会編「校区のあゆみ 新川」豊橋市総代会 平成 18 年

新川校区住みよい暮らしづくり計画

平成 23 年 3 月発行

編集・発行 / 新川校区住みよい暮らしづくり委員会

編集協力・印刷 / 豊橋市（担当：市民協働推進課）

保存版



撮影者 / 中西雅孝